

がんの早期発見と福井県の施策

福井県健康福祉部健康増進課長 宮下 裕文

【福井県が“がんの早期発見”に取り組んでいる施策を『福井県医師会 だより』本年4月号の巻頭言から要約して紹介します。】

福井県では平成25年3月に「第2次がん対策推進計画」を策定して、予防、早期発見、治療日本一を目指しています。それには県民のがん検診受診率を50%超にすることを一つの目標にしてきましたが現在は45.3%になりました。また、その前の平成22年度には全県下で受診券と個人負担金を統一してどの市町の医療機関でも等しく県民は検診を受けることが出来る体制にしました。

これまで福井県は受診勧奨の面では市町の受診券発行等による個別勧奨（コール）に加え、平成23年度からは受診勧奨センターを設け、全県下の未受診者に対して再勧奨（リコール）を実施しています。

そこで目下は、多忙な働き世代の人に精密検査を含め、どうすればより多く人に受診して貰えるか、が対策ポイントになっています。その手立てとして女性を念頭に置いたものとしては土日の集団・個別検診を「休日レディースがん検診」と銘打って積極的な受診促進を図っています。また、職場で働く女性の受診機会を増やすため、乳・子宮がん検診の実施事業所には検診費用を助成する制度もスタートさせました。さらに近くの検診機関を探すためのがん情報ポータルサイト「がんネットふくい」（健康管理協会）の開発を支援し、運用を開始しています。

さて、別の話になりますが「がん登録制度」について説明しておきます。平成28年1月から「がん登録推進法」が施行され、「全国がん登録制度」がスタートします。これによりすべての病院に都道府県へのがん情報の届出が義務化されることとなります。

（クリニック・医院・診療所には開設者の同意を得

て、都道府県が指定します。)

その他、県としてのがん対策は上の検診の推進に留まらず禁煙などの予防対策や治療環境の整備、患者支援など多岐にわたる施策を考えています。

官邸ドローンについて考える

4/23、総理官邸の屋上にドローンと呼ばれる飛行体が発見された。飛ばした者が25日夕刻、小浜警察署に自首、出頭した。小浜の青井の住人で40歳の無職男でした。東京の知人から早速、“小浜また全国区やで”という電話。1970～80年代の北朝鮮による日本人拉致の中に小浜の市民が含まれており、2002年に帰国した時も小浜が全国に知られました。その後、小浜に来る友人、知人を拉致現場の小浜公園展望台に案内するといたく喜ばれた。“拉致現場に行ってきたで”と言うのは蘇洞門(そとも)へ行って来たより話題性があったのでしょうか。その他、夏、気温が高い地域として名を馳せたことがあり、この25日には第一回の“日本遺産”全国18地点の中に鯖街道が選ばれました。これはありがたいことです。

さてこのドローンのことはどうでしょう。26日にあるおばさんが“なんぼ反対しても言うこと聞いてくれんからあんなことしたくなるんじやないかな”とかおっしゃる。こんな人もいるのかなと無思慮に驚いた。そこで私は“お宅の玄関にあなたが私に反対するからというので牛か馬のくそを掘り込んだらどう？”と言ったらさすがに黙った。主張が正しければ(と勝手に思い込んでいけば)手段はいつでもいいと言うのがまかり通ればこの世は恐ろしい。よく考えねばならぬことが多い昨今です。(松井)

《あとがき》

1) “散る桜 残る桜も 散る桜”。26日現在でも一本の桜にひとひらふたひらとまだ枝に留まっている花卉があります。 2) 当院ミニギャラリーは山本美代子さんの押し花に替わり、この27日から泉本貞(ただし)さん(内外海)の油絵です。描き始めて5年、素晴らしい上達です。